

経済・金融 フラッシュ

米8月ISM製造業指数は、55.7 と2年ぶりの高水準に

経済研究部 主任研究員 土肥原 晋
TEL:03-3512-1835 E-mail: doihara@nli-research.co.jp

米8月ISM製造業指数は55.7と2年ぶりの高水準を回復した。5月に景況感の分かれ目となる50を割り込み、4年ぶりの低水準に落ち込んだことを考慮すると、7・8月と連月で50台後半を回復したのは、製造業が急速な持ち直し局面にある事を示した形である。上半期の米経済は「財政の崖」合意による増税や強制歳出削減等の影響下にあったが、ISM指数の回復は、下半期はそうした影響が薄まり持ち直しに向かうとの見方を補強するものと言えよう。ただ、持続的な景況感の改善へと繋がるかについては、シリア軍事介入やFRBの金融緩和策縮小の動き、国債の上限問題等、様々なリスク要因が浮上するなか、予断を許さない状況にある。

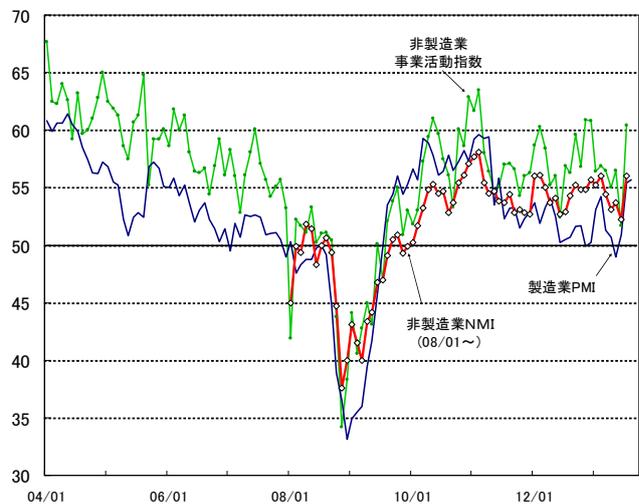
1、製造業PMIは55.7と続伸、2年ぶりの高水準に

企業のセンチメントを示す8月ISM(米供給管理協会)製造業指数(PMI)は55.7と前月(55.4)から若干の上昇に留まったが、2011年6月(55.8)以来となる2年ぶりの高水準に続伸した。市場予想は54.0だった。PMIは、5月に49.0と2009年6月(45.8)以来となる4年ぶりの低水準に下落した後、3ヵ月連続の続伸となる。

なお、金融危機時の2008年12月に33.1とボトムを記録、その後、2009年8月に業況の分かれ目となる50を回復、39ヵ月連続で50台を保ったが、昨年11月に49.9に下落後は、50前後での推移を見せていた(図表1)。

8月PMIの構成5指数を含めた内訳10指数を見ると、前月比で上昇したのは7指数で、残りの3指数は下落した。発表元のISMでは、過去のデータから見たPMIが示す経済全体の分かれ目(GDPのゼロ成長)は42.2であり、8月の水準(55.7)は実質GDPの年率4.2%に対応する水準としている。なお、5日発表予定の8月非製造業指数(NMI)の市場予想は55.0と7月(56.0)から小幅低下が見込まれている。

(図表1) ISM指数の推移(月別)



(資料) Institute for Supply Management、以下も同じ。

(各指数別の動向)

2、構成5指数中では受注指数が急上昇

PMIの構成5指数(新規受注、生産、雇用、入荷遅延、在庫)では、新規受注が58.3→63.2と前月比4.9ポイントの上昇を見せ、2011年4月(63.8)以来の水準を回復、半面、生産指数が62.4と同▲2.6ポイント、雇用指数が53.3と同▲1.1ポイント低下した。残りの2指数は、入荷遅延が52.3(同+0.2)、在庫指数が47.5(同+0.5)と若干の上昇に留まった。

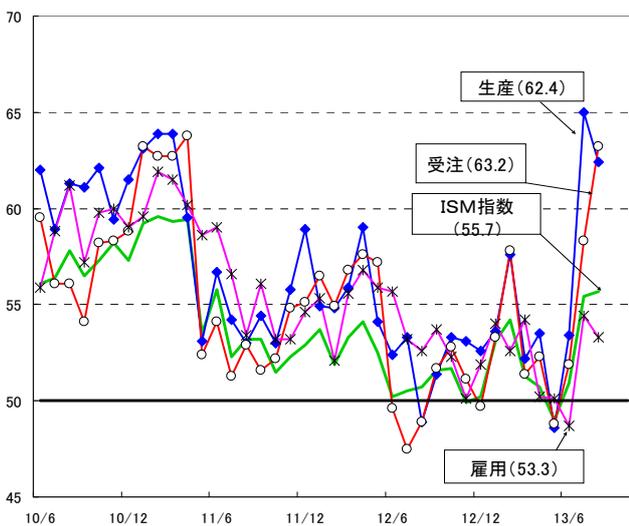
先行指標となる新規受注が2年半ぶりの高水準に上昇し、生産指数が下落を見せながらも高水準に留まるなど、主要な2指数が60台の高水準にあり、製造業の業況が堅調に推移していることを示した形である。

なお、雇用指数は6月に48.7と約4年ぶりに50を下回ったが7月は54.4へと上昇、8月はやや低下したものの50台は保った。週末発表の労働省の8月雇用統計の現時点の市場予想は前月比18.0万人増(7月16.2万人)、うち製造業では0.5万人増(7月0.6万人)となっている。

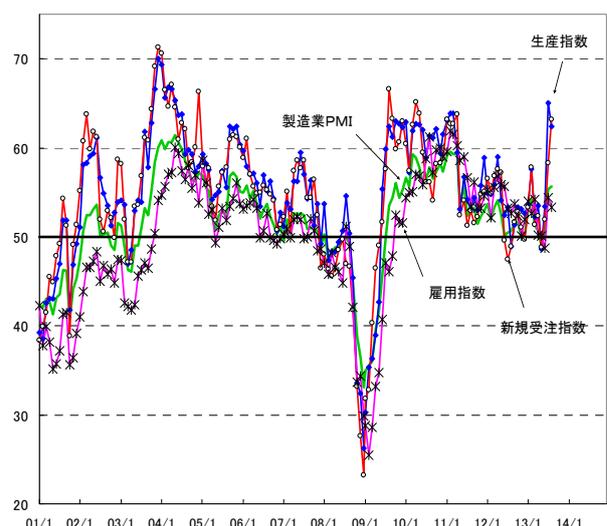
構成指数以外の5指数の前月比では、価格指数(54.0)が+5.0ポイント、受注残指数(46.5)が+1.5ポイントと上昇、半面、顧客在庫指数(42.5)が▲5.0ポイントと低下が大きかった。輸出入指数では、輸出(55.5)が+2.0ポイント、輸入(58.0)が+0.5ポイント上昇した。輸入指数の水準が輸出を上回る状況が続いているが、いずれも50台後半にあり他の3指数を上回っている。

上半期の米国経済指標では、「財政の崖」後の増税・歳出削減の影響もあって減速するものが多く見られ、ISM指数も同様の動きを見せていたが、7・8月と連月で50台後半を回復、製造業の持ち直しを示唆するものとなっている。

(図表2) PMIと主要構成指数の推移(短期)



(図表3) PMIと主要構成指数の推移(長期)



注：月別、()内の数値は2013年8月値

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。